

平成 31 年 1 月 23 日

文部科学省記者クラブ 御中

医学部入試女子差別問題から考える医師の働き方への提言

会見のご案内

日本女性医療者連合（JAMP）から提言します。

入試における医学部の女子差別は、男女平等、学問の公正の面から許されるものではありません。

しかし、現在の医療は、年間 3500 時間を超える医師の過重労働によって成り立っている現状があります。現場は男性も女性も過労死寸前です。

短絡的に目先の入試で女子を排除せず、男女の医師が共に生きがいを持って、家庭も仕事も継続できる医療環境の整備を提言します。

わたくしたちは以下を求めます。

1. 今春の医学部入試において、全ての大学に公正で透明性のある入学審査を求める。
2. 男女の勤務時間が過労死レベルである残業 1000 時間を超えないよう、医療環境の早急な整備を求める。
3. 医師の育成には約 10 年を要する。男女とも健康を守り、妊娠・出産・子育て・介護等と両立できる、医師の育成プログラムの整備を求める。
4. 現在、医師が行っている業務のうち、診療科や医師個人に偏っている業務や責任を、複数医師、非常勤医師やコメディカルとの共働によって軽減する措置体制をとること。
例) 当直やオンコールの地域シェア、書類作成や検査・診断の業務シェア、医療と地域保健行政の連携等
5. 大学教授や病院管理職、医師会・学会理事の女性割合を 30%以上に増やすこと。
6. 各大学で女性の包括的な健康に関する講座を設けること

日 時： 平成 31 年 2 月 1 日（金） 15：00～16：00

場 所： 文部科学省 12 階 記者会見室

会 見 者： 日本女性医療者連合 代表 津田喬子・対馬ルリ子・吉野一枝

特別発言： 弁護士 打越さく良（医学部入試における女性差別対策弁護団）
他

問い合わせ先： 日本女性医療者連合 事務局 北 奈央子

TEL：03-3535-2995 E-mail：jimu@jampwomen.jp